

千刈狸の呟き

北国秋田の厳しかる冬も、近年厳しさを感じ、昨冬は減多にない暖冬に終わった。桜も終り、山藤の咲くうららかな春に憂いなく快い季節を過ごしたいものと狸は春風駘蕩を決め込みたいと願っている。だが、何やら世の中が騒がしい。騒がしいのはいつもの事であるが、今度のは国の掟である本丸をすっかり作り変えると騒いでいる。騒いでおるのは、今の本丸が建てられた経緯と、その中身に不満いっぱい狸族である。今の本丸の評判があまりに良いのでこれまでは、大きな声では言わなかったのが、勢力の拡大に気を良くした首領狸が全ての狸の耳に届くように、明瞭に号令を出したのである。

かつての国の権力があまりに強く、自国民に対しても他国民に対しても極めて暴力的であり、ついには、膨大な犠牲の末に破滅に至った反省から建立されたものが今の本丸に外ならない。だが、その出自に当時狸族を統治していたGHQなるものが、強く関わったことから、根深い恨みを抱く狸も多い、現首領狸はその代表である。

本丸が御披露目された時、狸族の多くはその姿に不満なく暴力国家から平和を希求する民主主義国家に生まれ変わったことに誇りと喜びをもって受け入れたと聞く。ところが、どうだろう。今の本丸掟は狸者を自由にしすぎる。権利ばかりを主張し、愛国心の乏しい狸ばかり育てている。まずは子狸の教育から見直し、美しい日本、世界に二つとない伝統と文化の国を愛する心を育み、国や公共の為に尽す人材を育成しようと教育改革を行なった。

学校行事には国旗をかかげ、国家を歌わせる。

歌わない教師にはお仕置きをする。

～春風駘蕩～

脳天気狸

何かと言えば、文句ばかり言う報道機関を黙らせた。知られたらきっと文句を言うにきまっている事は知らせないに限る。知られないための決まりを作っておけば良い。放送局は公平な報道をなささいと言って政府への批判を封じる。何が公平か決めるのかは政府が決める。批判の矛先は政府にだけではなく、野党にも向けると公平なのか？国民に影響があるのは、政府の決めることであって野党が何を言っても実行されないのだから当然、政府の言うことにおかしさを感じたら、批判するのは当たり前なのだ。しかし、気に入らんことを言えば、偏向報道だから電波も止めてしまうらしい。

恩ある大貉親分の期待に添おうと、一緒に血を流せる仕組みもできあがった。さて本丸である。

新しい本丸の図面が発表されたが、どうも嫌だね。自由だ、権利だという前に、国の公の利益、秩序を優先させよと言っているみたいなのだ。何よりも新しい本丸を建てたい狸族の歴史観、国家観がひどく心配なのである。でもね、こんなことを書けるてえのは幸せだね。どっかの国でこんな事書いたら消されるね、きっと。自由を最小限に規制するのではなく、最大限を保障する国てえのは本当にありがたいね。守らなくちゃあ。

春風駘蕩、脳天気でいられりゃあユートピア。